2009.03.05(Thu)21:33:12　1版表　2450枚

後援会通信

2009年（平成21年）3月10日No.6

編集・発行
京都ノートルダム女子大学
後援会事務局
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1
TEL:075-706-3700　FAX:075-706-3707
e-mail:kouenkai@notredame.ac.jp

平成21年4月1日付けで学長が交替されます

学長挨拶

感謝とともにお別れを

京都ノートルダム女子大学 後援会名誉会長 学長 相良憲昭

象牙の塔と呼ばれた時代には、大学は学生たちに知識を伝達するだけでこと足れりと認識されていましたが、高等学校卒業者の半数以上が高等教育へ進学するようになった現在、大学生の学力、関心、精神的成熟度などが著しく多様化しており、それにしたがって大学は単に学生に対して知識や技術を教えるだけではなく、全人的な教育を施すことが求められるようになっています。そのためには学生のご家庭との連携協力が欠かせないのです。

このような考えに立って、私は保護者の方々の組織である後援会の存在をきわめて重視してきました。私が8年前に副学長として赴任してきたころの後援会は、率直にいって不活発との印象を強く受けたものです。しかし近年、大学との連携協力の重要性を理解してくださる保護者が増えて、後援会活動を積極的に推し進めてくださるようになりました。オープンキャンパスやND祭には後援会の存在を強くアピールするような活動を展開してくださっています。後援会と大学との結びつきがさらに強化されることを祈っております。

木村会長をはじめ理事・評議員の皆様にあらためてお礼を申し上げつつ、後援会のすべての皆様にお別れをさせていただきます。

さようなら。

私は4年間の任期を全うして、3月末日をもって学長を退職いたします。在任中、京都ノートルダム女子大学後援会の皆様方には、様々な形でご支援・ご協力を頂戴いたしましたことに、心からお礼を申し上げます。

次期学長挨拶

京都ノートルダム女子大学 後援会次期名誉会長 次期学長 藪内稔

本学は、ノートルダム教育修道女会によって創立されました。「カトリック精神」に裏付けされた〈徳と知〉を建学の精神とし、日々の学園生活を通して〈徳と知〉の調和のとれた成長と人格的発達を、教職員、学生・院生すべての本学構成員が心がけています。

わが京都ノートルダム女子大学の教育研究組織は、3学部・4学科から成り、さらに2つの研究科から成る大学院を擁しています。これらの教育研究組織の提供する多様な学問と研究実践を通して、学生・院生は、ものの見方、考え方を身につけていきます。そしてこの「教育力」の根源は、それぞれの専門分野の研究に取り組んでいる本学の教員一人ひとりの「専門力」であります。

大学における「研究」と「教育」は、表裏一体をなすものです。「研究なくして大学の教育はない」自明な大学教育の原点を、我々教職員はあらためて再認識して、本学における、それぞれの教育を通しての一人ひとりの成長を、展望をもってきめ細かく導いていく所存であります。

日々の心のこもった手入れのおかげで、本学のキャンパスは、花々の彩りのある美しさと優しさを感じさせてくれます。それと同時に、本学の、力強い「教育力」が醸し出す張りつめた清々しさが感じられるような、そんな品位のある大学にしたく思っています。

後援会の皆様のご支援とご鞭撻をお願いします。

大学には、それぞれの大学の「教育力」があります。津田塾大学学長の飯野先生は、「教育力」を「大学教育が学生に与えるインパクト」と定義し、具体的には「大学の理念、教育組織、個々の授業」であるとしていますが、私も見解を一にしています。

気品ある女性としての生き方を学ぶ「ノートルダム学」

Notre Dame

大学名の「ノートルダム(Notre Dame)」という言葉は、「聖母マリア」を意味しています。「ノートルダム学」では聖母マリアの生き方を理想とし、気品のある、誇り高い教養豊かな女性となることを目指しています。1年次生が充実した大学生活を送ることができるよう、本学の建学の精神である「徳と知」とは何かを深く理解し、日々の生活にどう取り入れるかを学んでいきます。単に知識を得るだけでなく、服装や姿勢、しぐさ、暮らし方などに表れる上品な美しさについて具体的実践的に学びます。さらに日本の文化としての茶道や華道を通して、もてなしの心やマナー、コミュニケーションの取り方を学び、充実したキャンパスライフを過ごすことをねらっています。実際にカトリック河原町教会でミサを体験したり、クリスマスや物故者ミサなどのキリスト教の行事に親しむ一方、ホテルでの立食パーティーでのマナー講座など盛りだくさんの体験も行います。

なお、1年次の「ノートルダム学Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、4年次の「ノートルダム学Ⅲ」では、自分がそれまでに学んできた様々のことを振り返り、今を生きる一人の自立した女性として、自信を持って堂々と社会に出て行くための姿勢を身につけることを目指します。

大学は学問することを本分としつつも、決して就職のための資格取得やクラブ活動だけが価値あることではありません。ノートルダムに縁あって学ぶ学生のみなさんには、是非とも一生の価値ある生き方を「ノートルダム精神」から学び取ってもらいたいものです。大学時代に、人としてのあり方、女性としての生き方を学ぶことは一生の宝となることでしょう。その宝を掴むきっかけ作りが「ノートルダム学」であるといえます。今年度初めてノートルダム学が実施されましたが、多くの学生から女性としての生き方を深く考えることができたという声をいただいています。

本学の建学の精神を象徴した「ミッションイメージ」には「人としての成長を目指します」という言葉がありますが、学生のみなさんが柔軟な心を育み、人としての向上・成長を目指し続けてくれることを心から願っています。

（心理学科　菅井啓之）

平成二〇年度 地区教育懇談会報告

平成20年度地区教育懇談会は京都、名古屋、高松、広島の4会場で開催しました。

◆**京都会場**（京都ノートルダム女子大学）
日時＝平成20年9月27日(土)
13時30分～16時00分
学長・後援会役員挨拶のあと、各学部・学科の教員および事務担当者が、成績・修学・就職・学生生活等の個別相談に応じました。

♣**名古屋会場**（南山大学・名古屋キャンパス）
日時＝平成20年9月28日(日)
13時30分～16時00分

♣**高松会場**（全日空ホテルクレメント高松）
日時＝平成20年10月4日(土)
13時30分～16時00分

♣**広島会場**（広島ガーデンパレス）
日時＝平成20年10月5日(日)
13時30分～16時00分

♣の会場では、個別相談（成績・修学、学生生活、就職等）に応じました。

会場でお願いしたアンケートで次のようなご意見を頂戴しました。

★成績通知書を見ただけではわからない事を教えていただけて、どんな事に注意を払えばよいのか、努力の方向などを知ることができました。大学が学生の卒業後に向けて考えながら教育をしているという説明に、自分の子も素晴らしい女性になって卒業できるように期待をします。（京都）

★娘から聞けなかったたくさんの状況や情報をゆっくりお聞きすることが出来ましたことを大変嬉しく思います。有難うございました。（京都）

★親として、希望して入学できた事と大学生活に満足しております。落ち着いた校風と手厚いご指導に感謝しております。（京都）

★ゼミの先生と直接懇談ができて大変良かったです。（名古屋）

会場別参加者数

	京都	名古屋	高松	広島	計
人間文化学部英語英文学科	24	2	1	1	28
人間文化学部人間文化学科	9	1	3	1	14
生活福祉文化学部	9	0	0	0	9
心理学部	24	3	1	1	29
計	66	6	5	3	80

平成20年度 ND祭 報告

―10月25日（土）・26日（日）―

＊バザー

後援会バザーも今回で第3回を迎えることができました。25日・26日両日、208教室にてバザーを開催しました。今年も開場を待つ列ができ、多くの方々にお買い求めいただくことができました。品物をお寄せいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

＊西川ヘレン講演会

「大家族　ささえ愛、見守り愛、励まし愛」のテーマで、夫婦のあり方、親子、家族のあり方をご自身のエピソードを中心にお話いただきました。4世代同居、実母と義父母の多重介護を体験されたヘレン氏のユーモアと感動をまじえたお話に、聴講者の方々も笑いあり、涙ありで引き込まれた一時間半でした。あらためて家族の大切さを考えるよい機会になりました。学外からも多くの方が来聴され、250～300人の参加がありました。

＊後援会賞抽選会

―ND祭に参加して豪華景品を！―

ND祭の活発化を願い、在学生の参加を促すことを目的に、本学学生対象の抽選会を開催しました。景品にはWii、デジタルカメラ、iPod、電子辞書、学食プリペイドカードなどがあり、雨天にもかかわらず多くの学生たちが集まり、好評でした。

【バザー収益と寄付のご報告】

平成20年度ND祭のバザーの収益金は、169,410円でした。124,145円を不登校児童生徒のための民間教育施設「聖母の小さな学校」に寄贈しました。京都ノートルダム女子大学心理臨床センターは「聖母の小さな学校」と連携をとり、活動に協力しています。

また、昨年に続き、ガーデンテーブルとチェアーの購入に残額を充てました。これでテーブルとチェアーは3組になり、学生たちのくつろぎの場として活用されています。皆様のご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。

2009.03.05(Thu)21:33:18　1版裏　2450枚

幅広く心の問題に対応できる相談機関を目指して

～心理臨床センターのご紹介～

心理臨床センターは外来相談を担当する心理相談室、発達相談室、学内学生相談を担当する学生相談室の3室から成り、様々な心の問題を改善し、その健康を増進させるための活動を行っています。スタッフは本学教員や専門相談員、事務職員、心理学研究科所属の大学院生によって構成されています。また、心理学研究科に所属する大学院生の実習の一部も心理臨床センターで行われています。以下に心理臨床センターの施設および各相談室の代表的な活動をご紹介いたします。

施設のご紹介

心理臨床センターには大きく分けて面接室、プレイルーム、集団療法室、発達検査室といった相談ルームがあり、相談される内容に応じたお部屋を準備しています。

■面　接　室　主に個人での相談や心理検査を実施する際に使用します。面接室の中には、砂が入った箱の中に人形や置物などを置いて心の世界を表現する箱庭療法が実施できるものや、室内に遊べる空間を伴った部屋で、まだ親御さんから離れることに不安がある年頃のお子さんと同室で相談ができるものなどもあります。また、ご家族の方数名が一緒に相談できる家族面接室もあります。

■プレイルーム　砂場やトランポリン、様々な種類のおもちゃを揃えています。これらで遊びながらお子さんのコミュニケーションや自己表現を促していくときに使用します。

■集団療法室　集団にプログラムを実施する際に使用します。心理相談室の特別プログラム「がん患者さんへのサポートグループ」はこの集団療法室で行われます。

■発達検査室　お子さんへの発達検査を実施する際に使用します。

各相談室のご紹介

心理相談室

心理相談室では、臨床心理士や精神科医、臨床心理士を目指す大学院生相談員が、様々な場面での人間関係の悩み、学校や職場での問題、不安や落ち込み、緊張など心の問題を抱える人に対して心理検査や心理療法を行いながら、問題の軽減を図る相談活動を行っています。

■心理カウンセリング　心理的な問題や悩みを巡って、じっくりお話しをうかがう中でそれらを解決したり、抱えやすくなることを目指します。

■プレイセラピー　お子さんにはプレイルームで遊ぶことを通じてコミュニケーションや自己表現を促していきます。

■心理アセスメント　心理テストを用いて自己理解や問題の解決への手がかりにしていきます。

■特別プログラム　がん患者さんへのサポートグループがん患者さんのいろいろな思いを共にわかちあい、支えあいつつ、病気を抱えながらもよりよく暮らしていけるためのヒントを一緒に考えていきます。

【開室時間】	月曜日・金曜日	9：00～17：30
	火曜日・水曜日・木曜日	9：30～19：00

発達相談室

赤ちゃんから中学・高校生ころまでのお子さんの発達や親御さんの子育てに関する相談を行います。発達検査などを用いて子どもさんの発達や学習、生活の問題について支援を行います。また、子育て支援として学校に上がる前までのお子さんと親御さんを対象としたこがもクラブ（乳幼児と親のための子育て教室）も実施しています。

■発　達　相　談　赤ちゃんから中学・高校生ころまでの子どもの発達について相談を行います。発達検査を行い、子どもの発達の遅れや個性を理解し、家庭や学校などでの関わりについて支援します。

■特別プログラム　こがもクラブ（乳幼児と親のための子育て教室）
学校に上がる前までの子どもたちが小グループで遊び、その間に親グループは、本学教員を交えて子育てに関わる話し合いを行います。
また、お子さんとご家族が本学の教員や学生とともに京都の自然と触れ合う企画、「こがも特別プログラム　自然と遊ぼう！」も年に1、2回行っています。

【開室時間】	月曜日～金曜日	9：00～17：00

学生相談室

学生相談室では、友人・異性・家族とのつきあい方、クラスやクラブ内でのトラブル、自分自身の性格や職業への適性など、学生生活を送る上でのこころの悩みや相談に対応しています。どんな小さなことでも気軽に相談することができ、相談には学生相談専属の専門相談員があたります。学生のプライバシーは守られています。

【開室時間】	月曜日～金曜日	8：45～17：15

ここでご紹介した代表的な活動以外にも心理臨床センターでは様々な取り組みを行っています。ホームページ（http://www.notredame.ac.jp/psc/index.html）にはより詳細な情報が掲載されていますので、こちらもぜひご覧下さい。
心理臨床センターでは今後も多様なニーズを取り入れながら、悩みを抱えた方ひとりひとりに合ったサポートが提供できるように努めて参ります。これからの心理臨床センターの活動にご注目ください。

就職課　OG講演会

リーマンショック後、急速な景気の落ち込みとともに、「売り手市場」から一転し就職戦線に厳しい波が押し寄せております。本学4年次生に関しましては、いわゆる「内定取り消し」という事例は発生しておりません。しかし、4年次生未内定者についての年明けの一般事務職の求人数は減少していることは事実です。

本学では1月31日（土）の午後、9名の卒業生を招いて「OG講演会」を開催いたしました。昨年卒業し、まもなく1年を迎える若手OGから勤続20年あまりで企業の人事部で採用に直接関わっていらっしゃるOGもいらっしゃいました。

第一部では、それぞれの就職活動を振り返り、どのように活動を進めていったのか、また現在の仕事のやりがい、ストレス解消法等をお話していただきました。その中で印象的に残っていることばとして、「学生時代には何かに必死になって取り組んでほしい。それがある人は仕事についても必死で取り組める」ということや、「時間の余裕がある学生時代は、できるだけたくさんの経験を積み、様々な人とコミュニケーションをとること」というコメントをいただきました。

第二部では、「企業が求める人材とは・・」というタイトルで企業の人事に携わっている先輩方と本学就職課職員とのパネルディスカッションを開催し、送り出す学校側と受け入れる企業側との意見交流をしました。企業側からは「こんな人とならいっしょに働きたいと思える人物をぜひとも採用したい」というご意見や、この不景気な状況でも人材の確保という点で「厳しいときに採用した学生は必ず景気が上向いたときに、すぐに対応できる」と考えて学生をご覧になっているとのことでした。

参加学生の質問の中には、「どのようなエントリーシートがよいのですか?」というOGであるからこそ教えてほしい質問も出てきました。先輩からは、「人にも第一印象があるように、履歴書にも第一印象があり、見やすく何よりも心をこめて丁寧に書かれていること」というお答えでした。

就職活動に正解はなく、一人ひとりの地道な取り組みが最も重要です。学生対応をする中で、「目配り、気配り、携帯電話での応答も含んだ相手に伝わるコミュニケーションが円滑に進み、情報のキャッチができる学生」がスムースなスタートが切れていると感じています。

本学就職課では進路に関する様々な質問を受け付けています。学生のみなさんの積極的な来室をお待ちしております。また保護者の皆さまからのご質問についてもお応えいたしますので、お問い合わせください。

《追記》
本学就職課では「就職課ブログ」を立ち上げています。本学HPから「就職指導と進路」のバナーよりリンクできます。就職課からのお知らせやガイダンス情報等を掲載しておりますので、ぜひご覧になってください。

京都ノートルダム女子大学
学生部　就職課
課長　友繁　博美

編集後記

本学は「大学基準協会」による厳格な認証評価を受け、適合との判定を得ました。教職員一同、教育・研究活動の一層の充実に向けて決意を新たにしています。

大学入試センター試験も終わりました。無事で当然とはいえ、万事無事にやり遂げるのは難儀なことです。　（M・K）

チャリティコンサートのご報告

平成20年9月23日(火祝)、京都コンサートホールにて「ノートルダムファミリーチャリティコンサート」が行われました。西アフリカのシェラレオネの学校教育現場に、現地のノートルダム教育修道女会を通して八三三、三七三円を寄付しました。

皆様のご協力に厚く感謝申し上げます。

聖書のひとこと 6

「彼らは身にまとう物もなく、裸で歩き、麦束を運びながらも自分は飢え、並び立つオリーブの間で油を搾り、搾り場でぶどうを踏みながらも渇く。」
（ヨブ記 24：10-11）

この箇所は、ヨブという人物が神に向かって、神が見守りはからっておられるはずの人間の世界に、どんなにひどい不条理が存在するかを訴えている場面です。ヨブがこの訴えをする背景を説明する紙面がありませんし、時代もはっきりしませんが、旧約聖書の時代の世界の現実が今の現実にあまりにも通じることに驚きを覚えます。麦束を運んでいる人が飢え、ぶどうを踏んでいる人が渇いていると、ヨブは訴えています。労働の実りが働いた人の手に入らず、他の人に奪われているという現実です。ありあまる物が生産されているにもかかわらず、必死で働く人が貧しくされ、あげく簡単に職場を追われて路頭に迷うという現実をどう理解したらよいのでしょうか。神のはからいは、イエスを遣わすことにありました。キリスト者であるか否かを問わず、今の世界において、イエスが言葉と生きざまをもって示された「仕えあう」「分かちあう」姿勢が問われていると思います。

カトリック教育センター　Sr. 小久保喜以子